

## ÖSTERREICH 博物館の現状の一考察

村越 信子

### A Study for Present Condition of Österreich Museum

Nobuko MURAKOSHI

#### I. はじめに

多くの国の人々が、「Museum」という活字を見ると、おおよその意味をとらえることができる。ドイツ語でも「Museum」、フランス語では「Mus'ee」、イタリア語・スペイン語は同じスペルで「Museo」、オーストリアの南に隣接するスロヴェニアでは「Muzej」と似かよっている。視覚から博物館という内容を把握することができるのである。その「Museum」の案内に誘われて、人々は期待と夢を持って入館するのである。その期待にこたえるように博物館はますます規模、内容とも大きく充実する方向へと進んでいる。そして科学技術が著しく進歩する近代社会において市民生活の中に浸透し続けている。

ヨーロッパの中央部に位置するオーストリアにある美術史博物館（ウィーン市内）は、フランスのルーブル、ソ連のエルミタージュやスペインのプラドと並ぶ世界有数の博物館であるこ

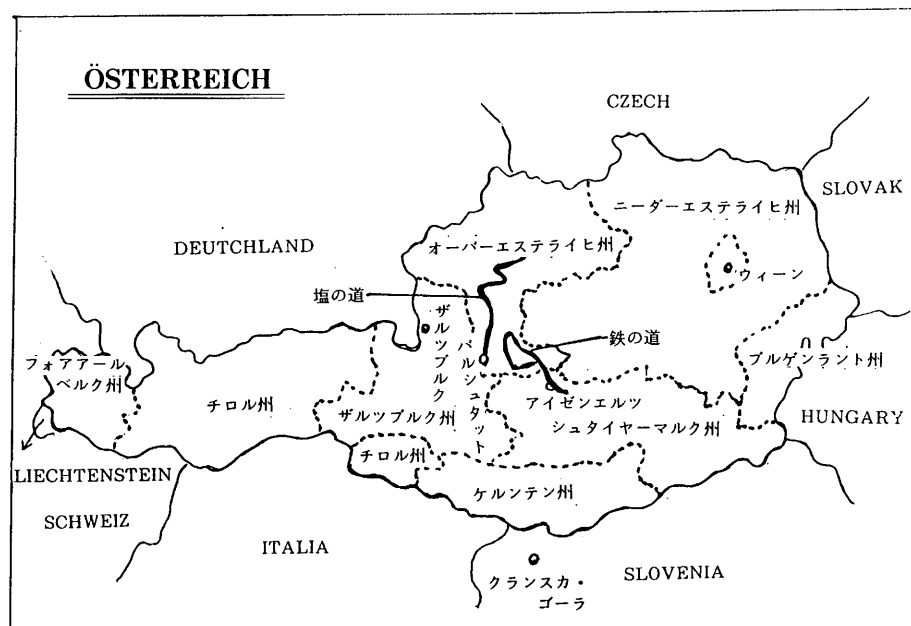


図 1

表1 アンケート用紙

Ich studiere Museum in einer Japanischen Universität.

Jetzt besuche ich "Österreich" und untersuche "Museum" in verschiedenen Teilen von Österreich.

Beantworten Sie folgende Fragen!

① Name des Museum \_\_\_\_\_

② Gründungsdatum \_\_\_\_\_

③ Öffnungszeitraum \_\_\_\_\_

④ Schlusstage \_\_\_\_\_

⑤ Eintrittsgebühr \_\_\_\_\_

⑥ Eigentümer (Öffentlich, Privat) \_\_\_\_\_

⑦ Organisation (Zahl der Mitarbeiter) \_\_\_\_\_

⑧ Ereignis \_\_\_\_\_

⑨ Besucher pro Jahr \_\_\_\_\_

Bitte geben Sie uns eine Broschüre Ihres Museums.

とは良く知られている。ハプスブルク家が収集した、絵画や彫刻の膨大な収蔵品が展示されている。しかし、オーストリアの他の博物館についてはわが国では知る機会が大変少ない。

オーストリアのケルンテン州とシュタイヤーマルク州（図1）を中心に、20ヶ所ほどの博物館を見学する機会を得て、博物館の現状を通して、この国の歴史や産業、そして生活を知る一端となった。ここに「ÖSTERREICH 博物館の現状の一考察」としてオーストリアの博物館の現状を記してみたい。

## II. 調査方法

### 1. アンケート調査

今回の調査に当たっては、言葉の障壁があるので、別添のアンケートに回答をもらうことを機軸に調査を進めた。なお、調査項目は①博物館名 ②設立 ③開館期間・時間 ④休館日・期間 ⑤入場料 ⑥運営母体 ⑦組織（職員数・学芸員数）⑧行事 ⑨年間来観者数等である。

### 2. フィールド調査

鉄と塩に関する調査は、博物館を中心にして、その地域に点在する関連施設をでき得るかぎり見学して、その全貌の把握に勤めた。

## III. 博物館の特色

IIの1アンケート調査、2フィールド調査により州毎に区分して博物館（通し番号）の特色を次に記す。

### 1. ケルンテン州

（1 シリング……約11円）

(1) ホーホオスタービッツ城武器博物館（Burg Hochosterwitz Waffen Museum）写真1

開 館／4月～10月 8時～18時（期間中無休）

入場料／城の見学料込み 70シリング（リフト40シリング）

特 色／オスマントルコ軍の脅威が続いた16世紀に築かれたもので、独立峰全体がひとつの城塞をなしている。その一部の3部屋を博物館として利用している。

- ・城内で使われていた各種の武器・甲冑類が主な展示物である。
- ・城の関係者の肖像画や戦闘場面の絵画も随所に展示されている。
- ・武器の種類：剣・携帯用大筒・鉄砲・槍・分銅付き斧など。
- ・人数がまとまるとガイドが案内する。



写真1 ホーホオスタービッツ城・武器博物館

(2) ケルンテン州立博物館 (Landes Museum für Kärnten)

写真2

見学者／年間約3,000人

開 館／火曜日～土曜日 9時～16時 日曜日・祝日 10時～13時 月曜休館

入場料／大人 30シリング 小人 15シリング、団体20名以上 25シリング

運営スタッフ／35名

特 色／19世紀に建てられたルネッサンス様式の建物の博物館である。

- ・有史以前やローマ時代の発掘品、一部は道路を隔てた野外展示場にも巨大な石造物やレリーフなど、通りがかりの誰にでも見ることができる状態で展示されている。
- ・イコン画の収集はかなり充実している。湿度の管理も良くできている。
- ・自然史、有史時代の地質の変化など模型化して分かりやすい。
- ・一室を使ったグロスグロックナー山塊のレリーフマップはみごとである。
- ・民俗分野では「冬の悪魔の祭り」「冠婚葬祭」の様子を写真付きで解説。
- ・鉄の飾り金具の収集もなかなか充実している。
- ・各部屋の休憩用の椅子の数が多く、ゆっくり見学できる。



写真2 ケルンテン州立博物館

(3) フェアラッハ市立猟銃・猟師博物館 (Buchsenschützerei Machey Museum)

写真3

見学者／年間10,000人

開 館／5月1日～10月25日 9時～18時 期間中無休

入場料／60シリング

運営スタッフ／4名

特 色／この地域の古くからの重要な産業であったことが良く理解できる。



- ・オーディオとビデオを多用して、分かりやすく説明している。
- ・室内の掲示物およびパンフレットは、独・英・伊・スロヴェニア語と国境沿いならではの国際的な配慮がなされている。



写真3 フェアラッハ市立猟銃・猟師博物館

(4) ケルンテン州立野外博物館 (Kärntner Freilicht Museum)

開 館／5月1日～10月18日 10時～18時 期間中無休

入場料／60シリング

運営スタッフ／10名

特 色／丘陵の斜面を利用し、倉庫や納屋を含め、約35棟の農家とその生活用品とともに展示・保存されている。

- ・チケット売り場も農家を活用していて、休憩所にもなっている。

(5) フィラッハ市立博物館 (Villach Stadt Museum)

開 館／5月2日～10月31日 月曜日～土曜日 10時～16時半 日曜・祝日休館

入場料／30シリング 学生 20シリング

特 色／イタリア、スロヴェニア両国に国境を接しており昔からの交通の要衝であった。

- ・古代やローマ時代の発掘品、中世から近代に至る絵画が展示され、特に民俗資料が興味深い。

## 2. シュタイヤーマルク州

(6) オーストリア野外博物館 (Österreichisches Freilicht Museum)

写真4-1・2

創 立／1962年

見学者／年間約80,000人

開 館／4月1日～10月31日 8時～16時 月曜休館

入場料／70シリング

運営スタッフ／12名

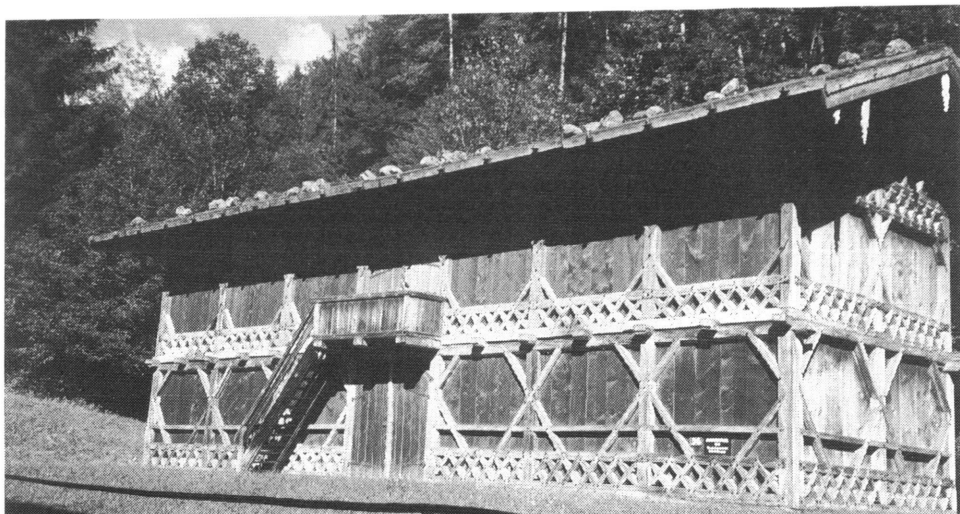


写真4-1 オーストリア野外博物館

特 色／約40万平方メートルの広大な敷地、自然の山や丘、谷や森の中にオーストリア各地より移築した約80軒の民家（16C～20C前半のもの）が点在している。家々には、家具や道具類がしつらえられ、あたかも人が住んでいるかのようだ。糸紬ぎやボピンレースなどの実演もある。随所にビルトシュトックも建っている。構内は飲食禁止のためレストランとカフェが併設されていて、一日ゆっくり見学をすることができる。



写真4-2 オーストリア野外博物館

(7) 聖図書博物館(Naturhistorisches Museum)写真5

創 立／1776年 建設1074年

見学者／年間約60,000人

開 館／4月～10月 10時～13時 14時～17時

20名1グループで、ガイド付きで見学する。

入場料／60シリング 学生 30シリング

特 色／天井のフレスコ画がみごとである。室内はバロック式内装とロココ式の書架が美しく、手写本や初期印刷本多数が収蔵されている。



写真5 聖図書博物館

(8) ガラスの宮殿博物館 (Glaspalast Neues Glas Museum)

ベルンバッハにあるガラス会社の工場内にある博物館（無料）

開 館／工場の稼働日 9時～13時 土曜・日曜・祝日休館

特 色／製作実演が見学できる。

(9) エッケンベルグ城・狩猟博物館

開 館／3月～11月 9時～12時 13時～17時

入場料／40シリング

特 色／古代からローマ時代の発掘品その他、更に古銭の収集の特設コーナーをも備えている。

(10) エッケンベルグ城・古代博物館

開 館／2月～11月 9時～13時 14時～17時

入場料／40シリング

特 色／古代からローマ時代の発掘品その他、更に古銭の収集の特設コーナーをも備えている。

### 3. オーバーエステライヒ州

#### (11) 鎌鍛冶博物館 (Sensenschmiede Museum)

写真 6



写真 6 鎌鍛冶博物館

創 立／1977年

見学者／年間約20,000人

開 館／5月～10月 9時～18時 月曜休館

入場料／60シリング

運営スタッフ／常駐4名 協力者6名

特 色／工場跡をそのまま博物館としている。4軒の施設が点在しているので、入場者にはワッペンを着けさせる。大きさが2メートルもある鎌には驚かされる。

### 4. ザルツブルク州

#### (12) 先史時代博物館 (Prahistorisches Museum)

開 館／4月～10月 10時～16時 (7・8月は18時まで延長)

入場料／70シリング

特 色／ケルト文化のハルシュタット期、と呼ばれる文化遺跡を出土した地域だけあってケルト文化を学ぶためには見逃せないものである。岩塩鉱山の採掘、精製などの歴史的なコーナーもできている。

#### (13) パート・イッシュル市立博物館 (Bad Ischl Stadt Museum)

開 館／4月～10月 10時～17時 (水曜日14時～19時) 7・8月以外は月曜休館

入場料／60シリング

特 色／元はホテル・オーストリアであった由緒ある建物を使っている。この地の歴史と地理に関するものを展示している。



写真 7 メルク修道院博物館

### 5. ニーダーエステライヒ州

#### (14) メルク修道院博物館

(Museum des Stiftes Melk)

写真 7

開 館／4月～9月 9時～18時 10月～3月

11時～14時 年中無休

入場料／55シリング

特 色／18世紀に完成されたオーストリア屈指のバロック様式の建築物。60メートルの断崖上に巨大なクリーム色の建物がそびえている。天井画のある大理石の大広間、フレスコ画と金で飾られた絢爛豪華な修道院付属教会、8万冊におよぶ蔵書を納め、美しい天井画とどっしりした木造りの図書館など、見学には十分な時間を取る必要がある。

## 6. ウィーン州

### (15) 美術史博物館 (Kunsthistorisches Museum)

開 館／火曜日～金曜日 10時～18時 土曜日・日曜日 9時～16時 月曜休館

入場料／100シリング（ウィーンカードで90シリングに割引となる）

特 色／ルーブル、エルミタージュ、プラドと並ぶヨーロッパ屈指の美術館。ハプスブルク家が収集した絵画、彫刻の膨大な収蔵品が展示されている。かつての宮廷美術館。北方ルネッサンス画家たちの作品は世界随一である。また、エジプト、ギリシャ、ローマ美術のコレクションもある。

### (16) 自然史博物館 (Naturhistorisches Museum)

開 館／月・水曜日～金曜日 9時～18時 土曜日・日曜日 9時～16時 火曜休館

入場料／100シリング

特 色／マリア・テレジアの夫、ロートリンゲン公の収蔵品が基になった自然科学全般にわたる博物館。先史時代の動植物、鉱物などが展示されている。ケルト文化の発祥地ハルシュタットの鉄器文化の出土品や25,000年前の『ヴィレンドルフのヴィーナス像』、117gもある巨大なトパーズの原石、1,500個ものダイヤで作ったマリア・テレジアの『宝石のブーケ』などが有名である。

### (17) ベートーヴェン博物館 (Beethoven Museum)

創 立／1942年

見学者／年間約10,000人

開 館／9時～12時15分 13時～16時30分 月曜休館

入場料／25シリング

運営スタッフ／2名

特 色／パスクアラティ男爵邸にベートーヴェンが1804年から1815年にかけて出入りしたり住んだ家。この建物のすりへった階段を上った5階の4部屋が博物館になっている。ここでピアノソナタ「月光」、交響曲「第4・5・7」、ヴァイオリンやピアノ協奏曲などを作曲したといわれる場所。ベートーヴェンが使ったグランド

ピアノや石膏像、楽譜などが展示されている。ベートーヴェンが作曲した曲をヘッドホンをかけてゆっくり聞けるコーナーもある。

(18) 人形・玩具博物館 (Puppen und Spielzeug Museum)

開 館／10時～18時 月曜休館

特 色／マリア記念柱の立つアム・ホーフ広場の裏にあるこじんまりとしたものであるが珍しい人形がたくさん展示されている。なお、次の時計博物館はこの隣にある。

(19) 時計博物館 (Uhren Museum der Stadt Wien)

開 館／9時～16時30分 月曜休館

## 7. スロヴェニア／クランスカ・ゴーラ

(20) 民家・民具博物館 (Liznjekova hiša)

写真 8



写真 8 スロヴェニア 民家・民具博物館

創 立／1983年

開 館／10時～17時（観光シーズン中は18時まで）  
月曜休館

入場料／大人 350トラール 小人・250トラール  
（1トラール……約1円）

運営スタッフ／2名（家族）

特 色／この山里の民家をそのまま博物館として  
いる。1・2・3階とも展示場として使  
っており、家具や各種の道具類も良く手  
入れされ、保存してある。個人所有とし  
ては管理も行き届いている。

・情報が入手しにくい国であり、クランスカ・ゴーラは、オーストリアとの国境に  
近い町なので、末尾に記しておく。

## IV. オーストリア博物館の現状について

前述の20カ所の博物館は、入館者（参観者）側の立場から見ると、全般には総合博物館ではなく、専門博物館が圧倒的に多いようである。これらの博物館は、その地域の産業、歴史文化、民俗文化、埋蔵文化等について理解するための大きな役割を果たしている。

### 1. 「鉄」の博物館

オーバーエステライヒ州南部からシュタイヤーマルク州にわたる「鉄の道」（図1）と呼ば

れている地域においては、ピルン・アイゼンヴェルツェンとかアイゼンエルツ（アイゼンは鉄の意味）という地名からわかるように、中世から鉄の製造と鉄の加工に関するあらゆる種類の作業が盛んに行われてきた（写真9－1・2）。大勢の鍛冶屋たちが、刃物や鎌（写真6）など各種鍛鉄細工製品を作っていたのである。現在でも数は少なくなったが、鍛冶屋の仕事ぶりを見ることができる。この「鉄の道」沿いにある郷土博物館を訪れると、この地方の鉄と鉄製品をめぐる歴史を詳細に理解することができる。

前述の(11)の鎌鍛冶博物館もその良い例である。ブリュックとフォルデルンベルクの町の中央広場には、鉄製の天蓋のついた「鉄の泉」といわれるシュタイヤーマルク独特の様式の鍛鉄細工の施された井戸が見られる。ブリュックの鉄の泉は1620年作、フォルデルンベルクは1668年の作で、最高傑作といわれている（写真10－1・2）。このように地域と博物館が一体となっていることは大変効果的なシステムといえる。



写真9－1 鉄鉱山・露天掘り



写真9－2 坑内見学





写真10-1 ブリックの「鉄の泉」

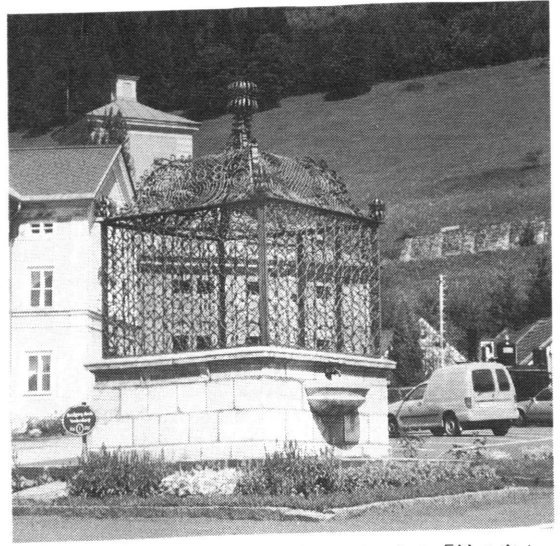


写真10-2 フォルデルンベルクの「鉄の泉」

## 2. 「塩」の博物館

オーストリア経済の活動にとって、重要な役割を果たしてきたものに、前記の「鉄」の他に「白金」と呼ばれたほど貴重な「塩」の存在がある。ザルツカンマーグート（いい塩の貯蔵庫という意味）と呼ばれる景勝地には、塩の精製工場のあったところという意味の「ハル」という名前のついた町が数多く点在していて、この地域が重要な役割を果たしていたことは一目瞭然である。その代表的な町にハルシュタット（オーバーエステライヒ州）がある。このハルシュタットの岩塩鉱山（写真11）は、岩塩博物館ともいえる施設である。この廃坑となった坑道や関連施設をかなりの時間をかけて見学できる。50人ほどのグループに、ガイドが付いて案内してくれる。その説明も社会科の授業のような堅苦しいものではなく、エスプリとユーモアに富んだもの。クライマックスは地底湖（岩塩の水溶液池）の辺で、一瞬、真っ暗闇になる。突然、不気味な声が「ウワッハッハー」と響きわたり、スポットライトの中に岩塩鉱山のシンボルマークが浮かび上がる。最後は「グリュック・アウフ！」（ご無事で）で、締めくくるなど茶めっ気のあるショーで盛り上がり、老若男女誰でも、楽しく見学しながら理解できるよう工夫されたものである。岩塩鉱山を見学した後、町の中心部にある先史時代博物館（12）に足を運ぶと、ケルト文化（紀元前800年から前400年までをケルト文化のハルシュタット期として歴史的にも重要な村）の展示のみならず、岩塩鉱山の延長として、岩塩の採掘、精製した商品と人々の生活とのかかわりなども良く理解できるようになっている。



### 3. 野外博物館

世界最初の野外博物館は、1891年スウェーデンの首都ストックホルムに開館したスカンセン野外博物館である。その創設者アルツール・ハゼリウスは1878年のパリ万国博に出品したスウェーデンの民俗衣装や農家を担当したのをきっかけに、伝統的な民俗資料を建物ごとにも復元し、野外に展示することを思い立った。さらに、スカンセンの丘陵に各地の建物を家具調度ごと移築し、住人や家畜まで配置し、民俗行事も実演する壮大な野外博物館を建設したのである。これ

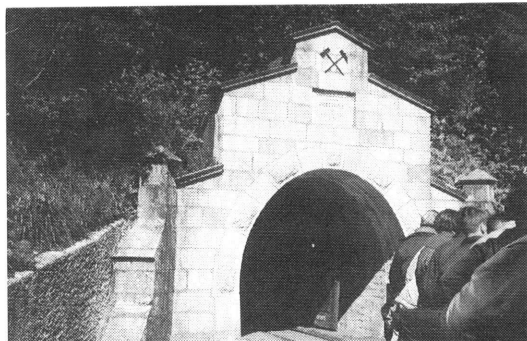


写真11 岩塩鉱山・岩塩博物館

が大変な好評を博したことが要因となって、北欧諸国はもちろん、ヨーロッパ内にも野外博物館が次々と誕生した。オーストリアも、前述(4)(6)などの野外博物館(写真4-1・2)があり、広大な敷地にたくさんの建物が点在し、また各種の実演も行われ、一日ゆっくり楽しみながら民俗文化にふれるようになっていて、他の博物館より年間の入場者数は一段と多いようである。

### 4. 修道院付属図書博物館

図書博物館(7)(写真5)(14)とも、修道院の付属施設になっている。ローマ帝国の支配下にあったヨーロッパでは、君主一族をはじめ、各地の豪族により個人的なコレクションが盛んに行われた。これらのコレクションは、中世になると宗教界が力を増し、寺院・教会にもいろいろなものが献納され集中しはじめる。これらの献納され収集されたものは、修道院や教会の権威を誇示するためのものとなっていったようである。ここに挙げる書籍の収集は、宗教関係のみならず、あらゆる学問の書籍にまでおよんで収蔵されているのは、このような歴史が影響していると思われる。また、それらを納めた施設は、修道院と同様、その時代の芸術の粋を結集した見事なものである。

### 5. 博物館の公開

開館期間はウィーンのような大都市以外では、4月から10月のみの開館で、冬期はほとんどが休館している。オーストリアの面積は、日本のほぼ1/4、北海道と同じ位であり、人口は東京都民よりも少ない790万人である。緯度は北緯47~49度で、北方にあり南カラフトの位置に相当し、中央ヨーロッパに位置している。このような地理的条件からも冬は休館し、シーズンだけの開館となる。休館日は日本と同様に月曜日が多いようである。職員は、受付から展示、管理、企画、収集など予想以上に少数のスタッフで運営されているのに驚かされた。展示替えなど人手が必要なおりは、応援してもらうなどシステムが完備しているようである。日本でいう

学芸員について、具体的な情報は収集できなかったが、運営スタッフとしてとりまとめて整理してみた。

## V. 考察

今回のこのオーストリア博物館レポートは、博物館側から十分な回答を得られなかった点もあり、参観する側に比重が置かれているので、批評することやわが国と比較することはさけた。

このオーストリアの博物館レポートを通じ、特筆すべき点は、まず、博物館が地域博物館として十分に機能しているものが多いことである。「鉄」と「塩」の産業をとり上げⅣ－１・２に記したことは、子供の頃から自国の産業を理解することにつながるし、外国人にとっても音楽のみのイメージの強いオーストリアの他の面を理解する助けとなっていることであろう。また、展示物と参観者との隔壁が極力排除されていて、参観者との信頼関係が感じられる。「模写お断り」「写真撮影厳禁」などの掲示物は、ごく限られたところのみにあるだけである。柵やショウケースを多用せず、ごく自然な状態で鑑賞できるように配慮されていることである。博物館側とそれを参観する側の間にあるものは、「展示物」と「解説」という固定した「物」と「場所」が主たるものとなっているから、この環境は理想的といえる。そしてどこまで理解してもらえるかどこまで汲み取ることができるかは、次の問題点になるであろう。さらに障害者への配慮は、新しい施設にはすべてバリアフリーが施され、古い施設は補助機材などを活用して不足の点を補っている。これらの姿勢は、ぜひ表面的でなく、その精神に見習うべき点が多い。

次に、運営スタッフの少ないことである。少ない人数で展示内容の充実を図り、参観者を満足させる創意工夫がされ、展示室内の監視人は見当たらない。例外として、ウィーン市内の美術史博物館には相当数の監視人が配置されていた。観光客の質の低下のためなのだろうか。チケット売り場とミュージアムショップ、その他、博物館の紹介パンフレットコーナーなどがあるが、その博物館紹介パンフレットには、付近の博物館をはじめ、同系列の博物館については、全国の主な博物館を一覧表として紹介するなど、参観者にとっても運営者側にとってもメリットのある情報が提供されている。大いに参考にしたいものである。最後に博物館は過去の知識を伝えるだけの物ではなく、未来へ伝えるべき文化と自然を確かな技術で残すことも重要な課題である。

## VI. 結び

オーストリアの中心部のケルト文化発祥の地を含む、歴史的に古くから栄えた地域・ケルンテン州、シュタイヤーマルク州、オーバーエステライヒ州、ザルツブルク州、ニーダーエステライヒ州、ウィーン州および隣接するスロヴェニアを加え、20ヶ所の博物館の視察を通じ、これらの国々の歴史や産業、そしてその土地の生活を知る一端となった。特に、博物館側と参観者との信頼関係が、参観者のより観察しやすい環境を作り出していることに感銘を受けた。

### 謝 辞

執筆にあたり、ご校閲を賜りました中里喜子教授に深く感謝申し上げます。